

令和6年度第1回古賀市総合政策検証会議 議事要旨

【開催概要】

開催日時：令和6年7月22日(月)19:00～20:30

開催場所：古賀市役所第1委員会室

出席者：

(委員) 南委員長、豊貞副委員長、大庭委員、長委員、橘委員(オンライン)、鶴委員、伴委員、藤井委員(オンライン)、文屋委員、宮原委員、吉岡委員、清水委員、松見委員

(事務局) 野村副市長、総務部長、市民部長、保健福祉部長、建設産業部長、教育部長、経営戦略課長、まちづくり推進課長、市民国保課長、健康介護課長、商工政策課長、農林振興課長、学校教育課長、文化課長、経営戦略係長、経営戦略係員

【議事・要旨】

| | |
|------------|---|
| 1. 副市長あいさつ | |
| 2. 委員長あいさつ | |
| 3. 審議事項 | <p>(1) 令和5年度主要な事業の実績に関する検証</p> <p>事務局：資料1、資料2に基づき説明</p> <p><委員からの質問事項></p> <p>【学校運営事業】</p> <p>なし</p> <p>【文化財公開・活用事業】</p> <p>(質問)</p> <p>観光系の学会ですごく話題になっていることだが、文化財の保存と、逆に観光という人に見せるという、相反する事業ということだが、その辺りはどういうふうを考えているか。</p> <p>→ (回答)</p> <p>まずは、古賀の宝を市外の人に知っていただく、こういったことも大切だということで、市の財産として、文化財のアピールをするとともに、保存については、九州歴史資料館と共同作業をしながら、保存活用、展示の仕方といったものも研究しながら今後どういった形で、クローズした保存の在り方やそれを効果的に市民や市外の方に見せるための取組を研究している。</p> <p>(質問)</p> <p>門司港かどこかで話題になっている文化財が見つかったときにそれを保存してしまうと、市として活用することができなくなってしまうということも起きている。古賀市では現在そういう発見がないのかもしれないが、重要な市の施設をつくりたいというところに古墳が見つかった場合、それはどうするのか。まだ起こってないことなのでリスク管理にはなるがどういうふうを考えているか。</p> |

→ (回答)

文化財は、基本的に発掘したら記録をする。そのうえで、保存しておくべきものとなれば、保存する方向で買取りを行うなどの方法をとるが、そうでない場合は記録だけを残すという形になる。

また遺物等に関しては、基本的に保存処理をし、見せられるものは見せるということで世の中が流れているので、相反すると言いながらも保存と活用は、一体として考え、適切な保存と、適切な活用・展示をやっていくという方針である。

(質問)

この事業の成果指標（歴史資料館入館者数、文化財関連イベントの参加者数、市外居住者のイベントへの参加者数）は定量的にはかりやすかったが、具体的にどういった交流が生まれて、どういった感じで魅力が伝わったのか、数字じゃない具体の部分を見せてほしい。

→ (回答)

数だけでは示せない中身というところになると、例えば、入館者を待つだけではなく、入館をしたいなと思ってもらえるように、こちらから広報し、入館者に懇切丁寧に説明をしていくなどの取組を行っている。

また、例えば、ウォーキングの事業に参加して文化財の紹介をしたり、保健福祉の祭りのときに文化財についてアピールをするといった取組を進めている。

(質問)

古賀の歴史資料館について、専用のホームページがなかったと記憶している。古賀市のホームページに、歴史資料館の各種のイベント、施設情報、過去に出している書類の PDF などは集約されているが、ぱっと一目で分かるものがないことが気になっている。市民の方や普段からリーパス周辺に行かれる方であれば、歴史資料館はリーパスにあると分かっていると思うが、これから市外からいらっしゃる人へ、アプローチしていきたいという考えがあるのであれば、玉虫の馬具など貴重なものも注目されており、歴史資料館で検索したときにぱっと出てくるホームページがないのは心理的ハードルが高いと気になっている。歴史資料館に関する古賀市のページは、全て各項目にリンクが張ってあるだけで画像とかで視覚的に分かるページがないので、全て一々リンク先に飛んで情報を自分で取りにいかないといけない。今後専用ホームページなどを整備される予定はあるか。

→ (回答)

歴史資料館の専用ホームページは、当面のところ新たに立ち上げるという予定はない。船原古墳を国の重要文化財に指定してもらえるように取り組んでいるので、今後デジタルコンテンツを生かしてできるようなことがあればというふうに準備はしている。

(質問)

イベントがどういう形で行われたか分かるレポート記事みたいなものをデジタル

コンテンツ見ることは可能か。見ることができると、今後の来場者数の増加や、プロモーションにつながったりと、見える化になると思う。

→ (回答)

現在、文字のみの表現のため、写真等を使い、分かりやすくなるように工夫をしていると思っている。

(意見)

ターゲットをどのように絞るかという視点も大切だと思う。今は全ての世代に向けて発信しようとしているように思うが、アンケートの結果もなかなかうまく得られないと記載があるので、戦略として、例えば子育て世帯をまず狙うなど、段階的に世代で絞っていく方法もあるように感じた。

→ (回答)

ターゲットについては事業の性質に合わせて絞るような形で進めているが、ご意見のように、中途半端な部分もあるため、工夫していきたいと思う。

(質問)

歴史資料館は体験型の講座や、ペーパークラフトなど、子どもでも参加できそうな取組をされているイメージがある。地元の子どもたちに、古賀の文化財について知ってもらうため、小学校などを資料館に招いて見学させるような取組はあるか。

→ (回答)

資料館の見学は小学生だと概ね 3 年生の希望がある学校の受入れをしている。また、船原古墳について小学校で出前講座的を行うなどの取組も行っている。

【多文化共生推進事業】

(質問)

多文化共生推進協議会の委員の中に当事者の方はおられるのか。

→ (回答)

多文化共生推進協議会のメンバーの中に外国籍の方はおられない。

(質問)

当事者の方が委員になることはできるけれども現在はおられないのか。または入ることができないのか。

→ (回答)

決してなることができないという体制で取り組んでいるわけではない。結果として、外国籍の方がおられないということである。

(質問)

今の交流型日本語教室は週に 2 回ぐらい開催されているようだが、実際に参加している人数はどれぐらいか。

→ (回答)

令和5年度実績で712名の方に参加いただいている。

(質問)

成果指標のめざす方向性が「↑」となっているが、これは講習会の数を増やそうという方向なのか、それとも1回当たりの参加者数が現状少なく、それを増やそうという方向性なのかどちらか。

→ (回答)

多くの方にまず参加していただきたいという思いと、どういった講習会が多文化共生のまちづくりにつながっていくのかというところもあり、両方を狙っているという考えである。

(質問)

現状では講習会1回当たりの参加者は定員に対し、どの程度参加しているか。半分や、毎回埋まっているなど。

→ (回答)

まだまだ知られていないという肌感覚はある。多くの方に今後も参加して欲しい。

(質問)

施策の目標「市民（主に若者たち）が、国籍や文化等の違いを受け入れ、尊重しながら、視点を高め、多様な考え方を受け入れることができるようになっていくだけでなく、自分自身を見つめ直し、自分たちの良さや市の新たな魅力に気づき、その良さを市内外に発信している状態」はとても良い目標だと思うが、このような状態が現時点で作れているか、主に若者と外国籍市民の交流があるか。

→ (回答)

特に交流型日本語教室において、受講される外国籍の方に、やさしい日本語を教える方たちには高校生の方もいる。特に若者の方々がこういった交流をすることによって、互いを尊重し合うことがだんだんとできていっているのではないかと現場を見て感じている。

また、日本語教室イベントで多文化ミニ運動会を開催した。ボランティアの方々と、若い方も協力いただいていた。この目標を完全ではないが、目標達成できるように若い方たちも参加頂いている実感はある。

(質問)

日本語教室は一般参加も可能か。

→ (回答)

まちづくり推進課に一言声をかけていただければ、交流が深められるように取り組んでいきたい。

(質問)

こういった講習会などの参加者のいわゆるその在留資格は、就労ビザの方が多いか、それとも留学の方が多いか。就労ビザであれば、例えば工業団地もあるため技能実習の方が多など、古賀市の特性があるのか。

→ (回答)

技能実習や特定技能の方が非常に多い。

(質問)

技能実習も制度が変わって育成就労のほうに変わっていき、また、特定技能も介護の分野など今後増えてくると思われる。労働環境の部分も大きく変わってくと思うので、それを受け入れる企業に対しての指導など、古賀市の取組はあるか。

→ (回答)

まちづくり推進課で指導はまだなかなか難しいと感じている。出入国管理局の方など関係者の方々と連携をしながら進めていくことになると思っている。また企業の声ということで、多文化共生の推進協議会の中で、労働力の確保などをテーマに、上げることができると思う。そういった機会で事業者の声をしっかりと受け止めていきたい。

【健康づくり推進事業】

(質問)

平成 28 年のデータと令和 4 年度のデータの比較をして減少しているということで、どのような取組をしてその効果が得られていないのか。もしくは、コロナの影響等もあって参加者数が少なかったのか、そういったところで市の取組の何らかの課題があったのかもしくは、コロナの影響による参加者数等のアプローチの機会が減ったのか。

→ (回答)

成果指標について、平成 28 年度と令和 4 年度で評価の比較をしている。この間コロナ禍ということもあり、なかなか市の取組を行うことができなかったということも大きな要因であると考えている。コロナ禍が明けてからは、外出自粛も解消されたので、令和 5 年度、令和 6 年度と参加が多くなってきている状況である。引き続き事業などできるだけ行い、市民力を生かした健康づくりに取り組んでいきたいと考えている。

(質問)

調査内容が成人に関しては減塩に心がけているかいないか、もしくは 60 歳以上であれば運動習慣があるかないかという調査をされているかと思うが、この分析を見ると、共働き世帯が増加しているもしくは惣菜やデリバリーの利用が増えた、もしくは運動習慣に関しては、在宅ワーク等の働き方等になったとかというようなその要因に関する質問項目を踏まえた上で、この減少ということでの調査なのか。

→ (回答)

アンケートの中では、共働きであるか、デリバリー活用があったかなど、具体的な項目までは調査していない。

(意見)

今後の参考までに、どのような要因によってこのような数値目標が低下しているかを考えるときに、要因に関する分析をアンケート項目や、聞き取り等で反映すると次の取組アプローチにつながるように思う。

(意見)

成果指標の減塩に心がけている人の割合は答える人によって定義が異なっていて、かなりあやふやな項目じゃないかと思う。人によっては血圧が普通値なのに減塩を心がけている方もいらっしゃると思うし、血圧が高い方でも減塩に心がけてない人が拾えないと思う。

県では食事内容をチェックし、1日の塩分の摂取量を目標値に定めている。それが上がったか下がったかと、年代や性別といったものをクロス集計して目標を出すという形にしている。

今回は難しいと思うが、将来的に塩分摂取量といった、客観的な数値を使うと実態が分かりやすいと思う。

→ (回答)

成果指標の項目は、市民意識調査で減塩を意識している割合、とても気にしている、気をつけている、余り気をつけていない、全く気をつけていない、そういった項目の調査になっているため、より具体的なクロス集計などしていくことで、分かりやすくなってくると思う。そういった項目は個別に大人健康塾といった、健診の結果によって、数値が高い方を対象とした教室なども開いており、個別には取り組ませていただいている。

【観光客誘致促進事業】

(質問)

古賀おでかけガイド「ここがすき」は、ちょうど手にとってみながら、ちょっと歩きやすいような、かばんにも入れやすいサイズで写真も多く、すごいデザインもかわいいし、いいなと思った。紙のものはどこに設置しているか。

→ (回答)

現在、転入者への配布、観光案内所、観光協会を初めとする市外から人が訪れると思われる場所に設置している。

(質問)

基本的に紙で設置しているのは古賀市内のスポットになるのか。

→ (回答)

現在そのようになっているが、物販などで市外に出かけることもあり、その際に配布している。

(質問)

古賀、福津、宗像とそれぞれ様々な観光商材として魅力的なものを持っていると思うので、相互で協力して、それぞれの観光協会におでかけガイドを置かせてもらう予定とはあるか。

→ (回答)

現在近隣の自治体に相談している。可能であれば今後実現すると思う。

(質問)

数か月前に、あるテレビ番組で、市民の方が古賀には何もないというのが、特集されていた。番組に対する反論も市としてあるのではと思う。この施策の目標が、「市民自ら誇りを持って率先して観光PRを行い、市外から認知され観光施設への来訪者が増える状態」。であり、放送があるとイメージついてしまうが、逆手にとった何か、発信ができないかと思ったが、市として率直な感想、意見を教えてほしい。

→ (回答)

某番組で放送された内容については、色々な方から、ちょっと違うよね、古賀だって色々なところがたくさんあるよね、と言われるように、古賀もポテンシャルは色々あると思う。点としては良い観光資源がたくさんあると思う。それを線としてつなぎ、古賀の観光資源を面で見せていくことが今後必要になってくると考えている。

昨年度になるが、観光協会モニターツアーという旅行会社の方を対象としたバスツアーも実施した。その中では、薬王寺温泉の旅館で提供される「鳥すき」や、老舗レストランで食の楽しみの価値を改めて見いだしていただいた。また、観光資源になるのかと思われるような筈内にある福岡県の馬術競技場も多くの大きな大会が行われており、訪れる方も一つの観光客として古賀市の魅力をPRできることも昨年度発見している。こういったことを線をつなぎながら、古賀市の魅力ある隠れた点を表に出していけるような取組を考えていきたい。

(質問)

菜の花まつりに毎年行かせてもらい写真を撮ったり、動画を撮ったり、発信したりする。ボランティアで成り立っていると知り、担い手不足や財政的に厳しい状況を改善していく考えはあるか。

→ (回答)

菜の花まつりは地元の方々を中心としたボランティアで構成されていて、実はもう来年の菜の花まつりに向けて、今年の菜の花から種を取るという作業が始まっている。風景を皆さんに感動していただくという思いをはせながら準備をしているので、お金のこともあるが、労力として何かお手伝いできないかと考えている。職員も菜の花まつりの実行委員の皆さんと一緒に、どういった方法があるかと知恵を絞ることも努力をするが、今後色々な方にどのようなお手伝いをしていただいたら維持

できるかということも考えていきたい。

(質問)

菜の花まつりについて、毎年今の開花状況の情報を探していると、情報をリアルタイム更新している場所があまりないように思う。今の開花状況がどのような感じなのか気になるときがある。インスタグラムなどで随時更新されているのか。専用ページもあるようだが、あまり更新がないように感じる。

→ (回答)

持ち帰り、来年に向け検討させていただく。楽しみにしてくださる方が増えるように前向きに取り組みたい。

【農業者経営安定支援事業】

(質問)

新規の就農者に対する支援で、特に農地の確保が最大の課題とあるが、休耕田や耕作が放棄されている農地などが増えているのが全国的な傾向というふうに認識している。農地の確保が課題っていうのはどういったことか。もう荒れて使えないとか、貸したくないといった状況なのか。

→ (回答)

まずは、ある程度つくりやすい優良な農地のほうが農作業が効率的に行われる。そういったところは既に作付されており、貸したい方借りたい方をつないでいくことが重要である。確かに耕作放棄地等は増えているが、農地に戻すには時間がかかったり、場合によっては農地に戻らないケースもある。極力優良農地を集約かけていくことが重要であると考えている。

(質問)

農業するに当たって、農機具の維持がすごく大きな問題と感じており、農機具が壊れて修理をするのに結構な金額がかかるから農家をやめたという御高齢の方の声も聞く。新規の方も同様で、農機具に対する補助はどのような内容か。結構金額がすると思うので、どれぐらいの補助かは大きな問題というふうに感じる。

→ (回答)

従前の補助制度は新品しか補助対象としていなかったが、農業をリタイアされる方、農機具等が余っている方の中古の品についても、補助の対象に拡大しているところである。補助率については事業に要する経費の3分の1以内、100万円を限度としている。

(意見)

100万円の補助はすごく高い金額だと思う、それでも足りないのだろうと感じている。そこがこの問題の根深さ。とにかくお金がかかる、資材を投じながら、畑の維持をしているのが現状のように思う。難しい問題であり、古賀市もかなり努力され

ていると思うが、新規就農者などの数字に順調に結びつけばいいと思うので、今後補助のあたりも見直しの議論をしていく必要があると感じている。

→ (回答)

今、農家はいわゆる家族経営が主であり、家族経営で行える広さの農地を経営されている。そうすると機械の使用効率も悪くなってくるので、例えば集落営農組織や、農業生産法人を設立していただければ、より機械の効率化が進んでくる部分もあると思う。

また、新規就農の方はそういうことに加入というよりも、自分の夢を持って就農されているので、それに対しての支援はしっかり行っていきたくて思っているが、この頃の資材の高騰、機械等の高騰があるので、先ほどの100万円の頭打ちということも含め、補助のあり方については、常にローリングをかけながら見直しを行っていきたくて思っている。

(質問)

最終的に農業生産が古賀市の生産の中の何%ぐらいになるのをめざしているか。農業就農の方を増やそうというめざす方向性だが、これはなくなるよりは増えたほうがいいぐらいの感じで、生産としてはそんなに増えなくてもいいという考えか。

→ (回答)

現在の市街化区域から山側、おおむね標高200mぐらいは農業振興地域として指定されている。古賀市の土地政策の課題で、主に市街化調整区域に農地が広がり、都市計画地域外の部分に宅地化が進んでいるという状況で、農地がどんどん減少している。今その中でも残していくべき農地を明確にしようとしており、例えば水田であれば10町歩程度つくらなければやっていけないという問題もあり、そのあたりで人数はある程度見えてくると思う。ただ、古賀は都市近郊型で高収益型があり、例えばイチゴなどはあまり大きな農地でなくても行えることもある。その辺を考慮しながら、農業者数を増やしていきつつ、各経営体が経営を行っていく数というのが最終的な落としどころになると思っている。

(質問)

農地の転用に制御はかけていないのか。

→ (回答)

農振法（農業振興地域の整備に関する法律）で、農地として保全する土地もある。また、農地法の中でも転用がきかないところもあり、現在基本的に転用を行っているのはどうしても狭いなど、住宅に介在しているところが主なところになる。

(質問)

有害鳥獣対策について、捕獲従事者の高齢化に伴う従事者の減少で後任の育成が必要という点で、後任を育成するのが誰かという点、基本的に狩猟免許とか持っている方が猟友会に所属し、ボランティア的に有害鳥獣の処理などをするのが、どこの自治体でも主な形態になると思うが、手間、時間、労力もかかるので、報酬がネックにな

| | |
|--------|--|
| | <p>ると思う。狩猟関係の方は、愛護関係の方などに良い印象を持たれないこともあり、有害鳥獣の処理が低賃金で、全国的に問題になっているので、古賀市はどのようにしているか。</p> <p>→ (回答)</p> <p>報酬について、古賀市は補助金を市の鳥獣被害防止対策協議会のほうに出している。そちらから報酬が出る形になっている。全国的に報酬が低い傾向があるということは承知しているが、基本的に今の時点で要望などはない状況である。</p> <p>(質問)</p> <p>内容の欄に新規就労者や女性農業者、集落営農組織など多様な担い手の定着に向けた育成・支援とあるが、今の認定農業者37経営体のうち女性の認定農業者の数が分かったら教えてほしい。</p> <p>また、あわせて女性の認定農業者を増やすためのサポートなどあれば教えてほしい。</p> <p>→ (回答)</p> <p>認定農業者のうち女性は5名である。</p> <p>また、女性の認定農業者に特別なサポートといったことはしていないが、基本的に農業経営の改善を進める内容の計画を出していただき、市が認定して認定農業者となるため、経営の改善の内容については、定期的に改善のアドバイスをさせていただいている。</p> <p>【住民情報管理事務】 なし</p> <p>【総合政策推進事務】 なし</p> |
| 4. その他 | 事務局：事後質問の案内 |